

批評集 β 篇 · 3

~ 1 9 9 4 · 9 ~

序 文

現在まで刊行してきている形態のパンフレット群の最初の一冊は、87年9月の批評集 β 篇1に相当するものであった。そして、その段階では、現在までの同時平行的な各パンフの展開は予測していなかった。この二つのことは、かなり重要であるという気がする。

なぜ、87年9月の段階で批評集 β 篇1に相当するものの刊行を開始したのかをふりかえってみると、時の楔通信の発行委託の提起（87年3月）の後で、時の楔通信を出現させてきた必然性をより深く追求するためにも、一見それとは異質で対極的な表現に取り組んでみようとした。また、自分の表現や行為が、自分だけの総括としてではなく、現社会の多数の人々の眼に映っている像の確認と転倒が不可欠である、とも考えた。

これらの予感的な構想の根拠については、すでに β 1や β 2の序文（後のページに転載する。）に記しており、その方向が α 、 β 、 γ …系のみならず、うら表紙にリスト化したような多彩な刊行につながってきていることを喜びをこめて確認しているけれども、これによいと自足しているのではない。たえず自分の軌跡を、もう半歩でも超える努力を続けたい。そのように考えている私にとって、 β 1や β 2を刊行していた87～88年の段階と現段階で何が連続し、何が異なっているのかを確認してみると、

異なっているのは、 β 1や β 2を刊行していた87～88年におこなっていた103出版（岡山大学学友会気付）との共同作業が90年以降は困難になり、連絡がとれなくなったので、その段階までに刊行し103出版の〈倉庫〉に冬眠しているパンフ群の活用ができず、印刷のために委託しておいた各パンフの原本も宙吊りのままなので、あらためて調査構成しなおさなければならなくなった。しかし、そのために、より読みやすいコピーを準備し、より立体的な構成と註を作成することが可能になった。昨年の γ 6～7と今年の β 3～4について、このことは一層あてはまる。この成果をつくり出すために無意識の共闘してくれた103出版の80年代の共闘者たちに感謝している。また、かれらと別の場での作業を体験することにより、刊行の際にかれらが抱いたであろう感覚や、それを含む広範な活動の軌跡を以前よりも正確に判断し応用できるようになっていることを記しておきたい。

87年～88年段階と現在で共通していることは多いが、その一つをラセン状の一周性としてのヴィジョンとしてのべると、 β 2の序文で提起していた〈ジャーナリスト〉の概念に再び出会っていることである。参考のために、 β 2の序文と、私が β 2の序文で言及していた芥川竜之介の文章を β 4の2ページに掲載しておく。〈ジャーナリスト〉論は、殆ど注目されていないけれども、かれの、というより、かれらの時代が漠然と予感した〈未知なる情況〉と、それが引き寄せているイエスやハイネの像は、交換すれば、個別の人物論とか表現論を超えた領域で、私たちに大きい示唆を与えてくれることに気付いている。

構成への註

- 1-β1〜2 刊行後に入手したβ系の資料を時間順に配列し、神戸大学闘争ないしへく闘争の重要な日付ごとに最低一つ以上の記事を取りだして掲載した。本来は一冊にまとめたかったが、量的な多さのためもあって二冊(β3と4)になった。
- 2-重要な日付ないしテーマについての記事が新しく入手した資料の中に見当たらない場合には、β1〜2から再録した。従ってβ3〜4を、あるレベルの闘争史ないし批評集として読むことも可能である。
- 3-前項は、〈私〉ないし任意の対象についての評価が、どのような振幅で生起しうるかを確認し、転倒していくための素材になりうる。この視点から、それぞれの記事に関して、いま構想中の反β系パンフへの契機となりうるような簡単な註をつけた。

補註1-1でのべている「β1〜2 刊行後に入手したβ系の資料」も、まだまだ部分的であり、今後も刊行委として発見したり、つくり出したり(一)していくつもりである。

2でのべている補充の資料はβ1〜2に限定した。例えばγ系の資料の中にも、γ6の冒頭のリストから判るように、本来はβ系の資料がふくまれているが、この複合・交差の関係は全パンフく全テーマに拡大しうるので、今後の作業課題として残し、今回はβ1〜2との関係に重点をしばった。

3でのべている評価の振幅については、それ自体として考えるよりは、例えば五月三日の会通信や時の楔通信を読みながら比較してみる方が面白いし、有意義である。なお、小林秀雄の「解釈などでは変り得ない恒常的な人間事実はあるのだ」という『考えるヒント』中の「歴史」の項にある言葉(34年12月)を共感と批判の双方の座標系で想起している。

補註(続) 1-入手した資料は基本的に全て開示していく方針をとっているが、今回は掲載しなかったものがある。それは70年代のある時期に、神戸大学闘争に関わった人達がスパーで金を払わずにジーンズを入手し、警備員の通報で逮捕されたという記事である。もし、この記事を手掛かりとして他のマスコミや大学当局が神戸大学闘争や、それに関わった人達を誹謗することがあれば、これに対する反撃の過程で記事を掲載することを考えてきた。しかし、これまでのところ、マスコミや大学当局の動きはないので、わざわざこちらから資料を提供してやる必要もないと判断して、このパンフには収録しない。

ただし、問題は、より深く残っていく。いわゆる「万引き」行為について、かりに掲載されても公然と反撃し、その結果を引き受けていく姿勢を確立している時以外は実行しない方がいい、というのが私の判断基準である。また、70年代のある時期に、かなり日常的に?この行為に関わった人の、その段階での闘争・生活感覚との関連、その後の変化の対象化過程を一緒に展開したいと希望していることもおおく。

松下昇
「マスコミについて」の批評集
—マスコミ篇—の註

1. 87年9月段階から批評集の作業を実質的に展開している過程で気付いたのは、活字で発表されたものは

α 国家と大学によるもの

β 社会的報道

γ △松下昇Vを自らのテーマとして論じるもの

に区分することができ、これまではγを中心として作業をすすめてきてはいるが、そしてαについては時の標通信をふくむ場で止揚してきてはいるが、βの対象化が空白であること、βは意外に重要であり、αやγの構造を把握するためにも必要である、ということであった。また率直にのべて、大まじめなαやγの記述よりもおもしろく、本質をついているものが少くない。これは包括的に採読すれば採得されるであろう。

2. βの資料として、基本的にマスコミの新聞と雑誌(感覚的にいいかえると一地方ないし全国性の住民が社会的に均一の情報回路として入手しうる活字表現。それゆえにこそ、ある意味で大衆のみならず、αやγの表現主体の幻想性に与える影響を無視しえない。)から批評集の作業目的に役立ちそうなものを抽出した。刊行委の未知と未入手のものについて、ご教示を歓迎する。なお、例外的にマスコミ以外のものを数点加えているが、これはγの構成に、マスコミ掲載分を数点加えていることに対応し、この交錯領域の意味の追求も必要であろう。

3. αの表現を△原稿Vとして掲載して△原稿料Vを入手したり(松下昇発言集の「私に対する四つの文章」参照)、そのまま△古本Vとして△パンVに変えたり(例一神戸大学教養部広報)して成果を上げてきた方法が、現段階において表現論としても、より高次に構想されていること、この作業が、αβγの意味を、γの「非活字」非文字の深さから批判的に生かしていくであろうことをのべておきたい。

〜87年11月〜

松下昇批評集刊行委員会(達)

マスコミ篇（統）の刊行に際して

一九八七年一月から配布を開始した批評集（主としてマスコミ報道β系とする）に欠落していたものを補充し、（統）として刊行する。今回は、大学や人事院や国が、公的抑圧力をもつ批評（α系とする。総体を批評集α篇として準備中）である広報や裁判などの証憑書類の中でもちいた新聞記事の一部を応用し、数種類の△脅迫状▽（多くは、大学当局が留置中）も、マスコミ報道に誘発される非活字のβ系批評として併合した。また、β系からはみだす岡田書店の在庫書目、103通信1第△2▽号を参考資料として加えた。

β系批評の総体に対してのストレートな反批評は、今は主要な課題としない。むしろ私たちは、

一 一記事の作成主体やメディアの位置と意図にかかわらずなく浮かびあがる原資料性（社会総体に一定の影響力をもちうる）を、包括的に止揚する。

二 β系に限らず、α系やγ系（△松下▽論）の批評が踏み込みえていない領域の共通性と差異を逆照射する。

三 一九六九年以降の状況をくぐった任意の人について、具体的な△大学▽闘争への関わりの有無とは関係なく、この企画のように、αβγ系の批評集を構想してみる時の△松下昇▽における、驚くべき均衡にみちた不均衡性（あるいは、不均衡にみちた均衡性）

は、どこからくるのかをさぐる。

という諸点に比重をおきたい。

一 に関連してのべると、α系やγ系（△松下▽論）に多くみられる、狭い共同性内部の了解と流通範囲とは異質なβ系の言語形態には、不満よりは解放感をあたえるところがあり、マス（大衆）が拘束されつつ支えている幻想的規範と本格的にとりくむ媒介となりうる。

二 に関連してのべると、例えば、東大における中沢非採用問題よりも、はるかに巨大な意味をもちうる一九七〇年代の京大における松下昇と未字非採用問題を、批評者たち（β系のみならずγ系も）が、とりあげ得なかつた経過は、先行く潜行性についても私たちの自信を深めてくれる。

三 に関連してのべると、マスコミ篇の作成過程において、なぜか、芥川竜之介が、イエス・クリストやハインリッヒ・ハイネを、そして自らをジャーナリストと呼んでいることを思い出していた。

そのように呼び得る位置と根拠を生きようとするのが、批評集を構成したり、本質的に読んだりする前提条件の一つではないだろうか。

一九八八年九月

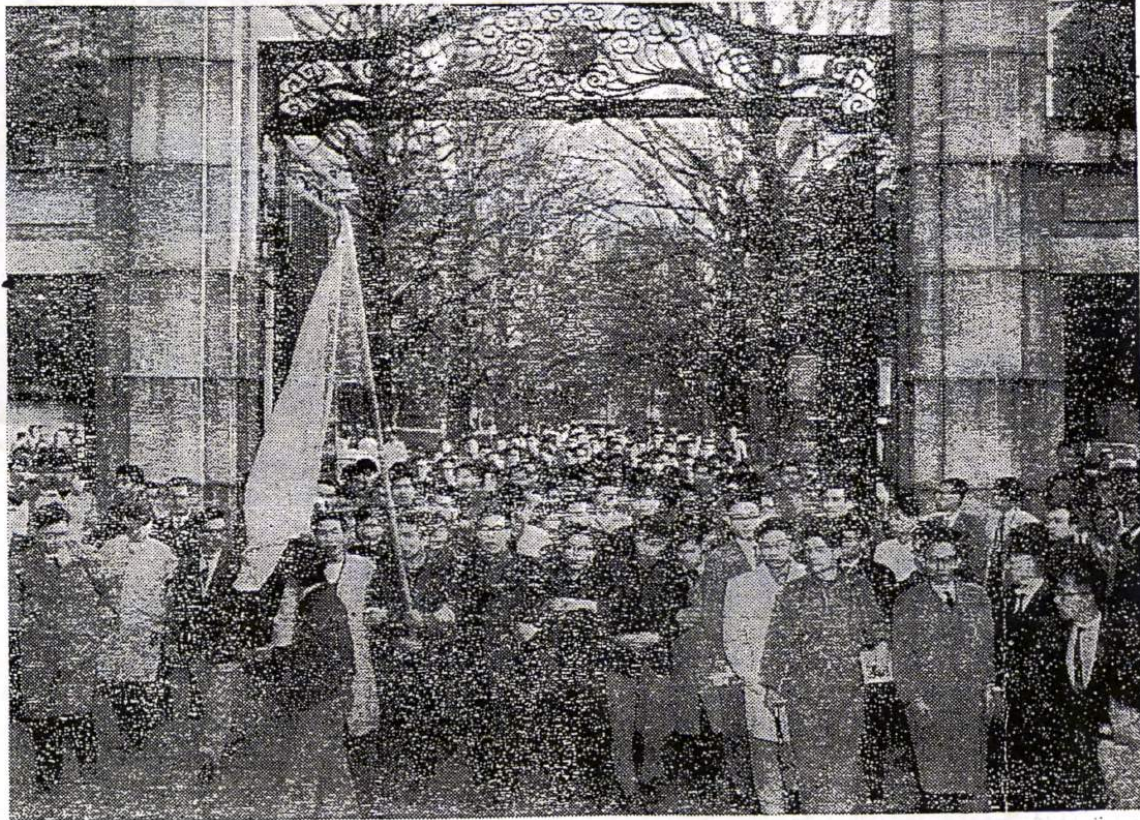


刊行委の註―この写真は、59年12月中旬の週刊朝日に掲載されたものである。松下の知人から94年になって、つまり35年後に届けられ、松下は、この写真のことは全く知らなかった。驚いたが、批評集8篇の前史的資料としての意味があると考えて、ここに収録することにした。3分の1世紀を超える伝達過程がありうることは、私たちの試みにとっても示唆と激励を与えてくれる。

(93年に出会った)

刊行委の註―安保闘争の過程で59年11月27日の国会構内へ全学連のデモ隊がへ乱入した行為に対して指導者への逮捕状が出た時期の写真である。

刊行委の註—この写真は、表現集1の〈北海〉や、表現集3の〈ハイネ論〉の成立の原ザイジョンに関わっていることを、このパンフの位相をほみ出して記しておく。



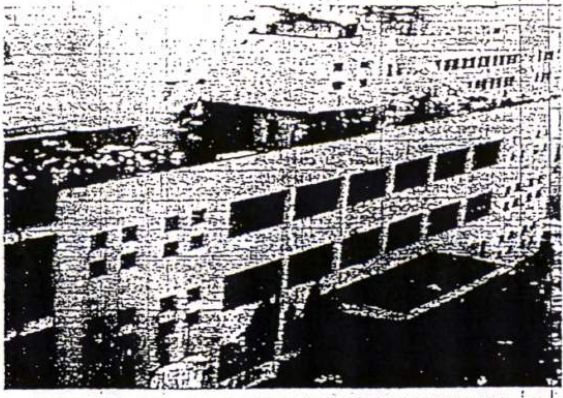
→ 菜山(旗を持った学生の右)を囲んで、キタのご紋章のついた正門をくり出す東六のデモ隊

入試控え平高高交勢

神戸市立平岡高等学校の入学試験が、2月3日(土)から始まる。この日は、市内の各中学校から、約1,000名の受験生が、平岡高校に集まる。入試は、午前8時から午後5時まで行われ、午後5時から午後7時までは、受験生の保護者や関係者の来校が予想される。平岡高校は、今年度も、従来の体制で入試を行う予定と見られる。

教職員らの実力で

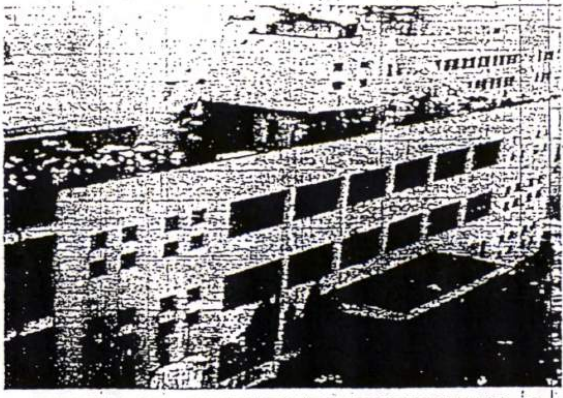
工事部 流血避け五カ月ぶり



神戸市立平岡高等学校の校舎。この日は、入学試験が行われ、多くの受験生が来校した。

神戸市立平岡高等学校の工事部が、5ヶ月ぶりに流血を避けた。この日は、工事部の教職員が、入試の準備作業に集中し、工事現場でのトラブルは発生しなかった。これは、教職員の実力と、現場での厳格な管理による成果と見られる。

日大、三学部で封鎖解く



日大の校舎。この日は、三学部の封鎖が解除された。

日大の三学部が、封鎖から解放された。この日は、関係者間の話し合いがまとまり、封鎖が解除された。これは、関係者間の協力と、話し合いの成果と見られる。

上部四団体を捜索

反日共系の行動指揮

反日共系の活動が、神戸市内で活発化している。この日は、関係機関が、上部四団体の捜索に乗り出した。これは、反日共系の行動指揮と見られる。

反日共系あす集会

東大闘争立て直し図り

反日共系の関係者が、明日(4日)に集会を開く予定と見られる。この集会では、東大闘争の立て直しを図ることが、関係者の間で話し合われると見られる。

建設業者も雇い

法・経学部で凶器撤去



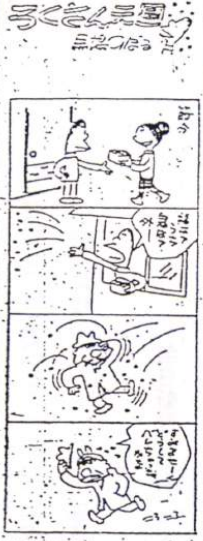
法・経学部の関係者が、凶器の撤去作業を行っている。

法・経学部の関係者が、建設業者も雇い、凶器の撤去作業を行っている。これは、関係機関からの依頼によるものと見られる。

徹夜団交もの別れ

委員長の三人解雇

徹夜団交の別れ、委員長の三人が解雇された。これは、関係機関からの指示によるものと見られる。



神戸市立平岡高等学校の入学試験が、2月3日(土)から始まる。この日は、市内の各中学校から、約1,000名の受験生が、平岡高校に集まる。入試は、午前8時から午後5時まで行われ、午後5時から午後7時までは、受験生の保護者や関係者の来校が予想される。平岡高校は、今年度も、従来の体制で入試を行う予定と見られる。

刊行姿の註一マイクロフィルムからのコピーなので読みにくいですが、69年2月初めの全国的状況の断面を各記事の見出しから読み取ることが出来る。

神戸電報電話相談所

06(78)2-1911

神戸市立平岡高等学校

入学試験

2月3日(土)から始まる

午前8時から午後5時

午後5時から午後7時

受験生の保護者や関係者の来校が予想される

ゼノール

打撃・投擲

湿布に

委員長の三人解雇

徹夜団交の別れ

建設業者も雇い

法・経学部で凶器撤去

反日共系あす集会

東大闘争立て直し図り

反日共系の活動が、神戸市内で活発化している

上部四団体の捜索

日大、三学部で封鎖解く

教職員らの実力で

工事部 流血避け五カ月ぶり

入試控え平高高交勢

神戸新聞

昭和44年2月3日

59

神戸市立平岡高等学校

入学試験

2月3日(土)から始まる

午前8時から午後5時

午後5時から午後7時

受験生の保護者や関係者の来校が予想される

平岡高校は、今年度も、従来の体制で入試を行う予定と見られる。

刊行委の註一松下のへ情況への発言」についての報道は、B1に神戸大学新聞（2月号）を収録しているが、その後人三したマスコミ報道の一つをここに掲載する。
この時期には、このレベルで把握されていたのか、という感慨がある。

神戸新聞 69年2月3日

「私も授業せぬ、闘争を」

神大講師が学生にゲキ文



松本 大 講師

神戸大学新聞の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、

神戸大学新聞の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、
この闘争の面々「神大の闘争」は、

神戸新聞 69年2月11日（夕刊）

教養部△棟を封鎖

神戸大 大衆団交が決裂

山形県立大学教養部△棟を封鎖する学生が、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、

教養部△棟を封鎖

山形県立大学教養部△棟を封鎖する学生が、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、

山形県立大学教養部△棟を封鎖する学生が、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、
この封鎖行動は、

カットを学生見破る

録事議

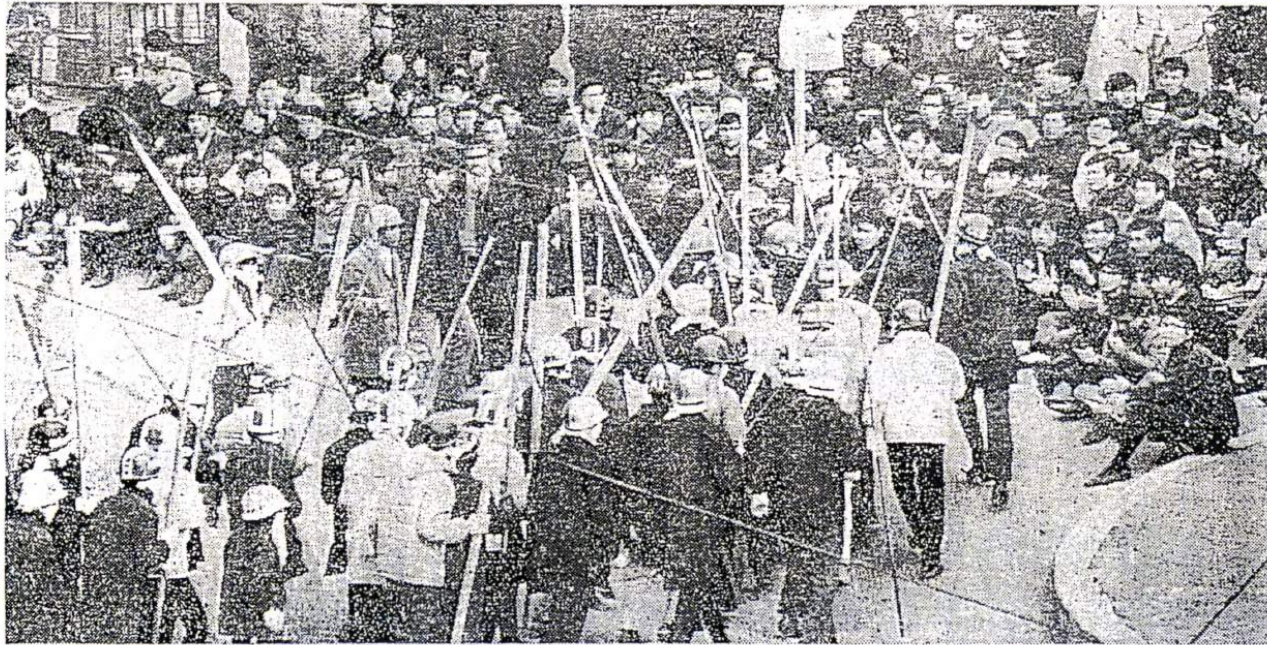
神大改めて原テープ公開

神戸大学は二十八日、大学評議会議決案の改訂案を承認していた「原テープ」の公開を拒否していた。十三日の評議会で原テープの公開を公認したが、内閣府の要請で撤回した。この改訂案の採決は、原テープの公開を拒否して、原テープの公開を公認した。同大学の各学部生は、この改訂案を三波生に面談して、原テープの公開を公認した。

刊行委の註一2月28日の評議会議録原テープ偽造の発見により、闘争の方向は全共闘側に極めて有利に展開していく契機になっただけでなく、大学闘争を個別の改革要求のレベルから、普遍的な表現の階級性のレベルへ押し上げていく契機になった。しかし、直後の3・1事件により、この展開は不可能になった、少なくとも当分の間…。

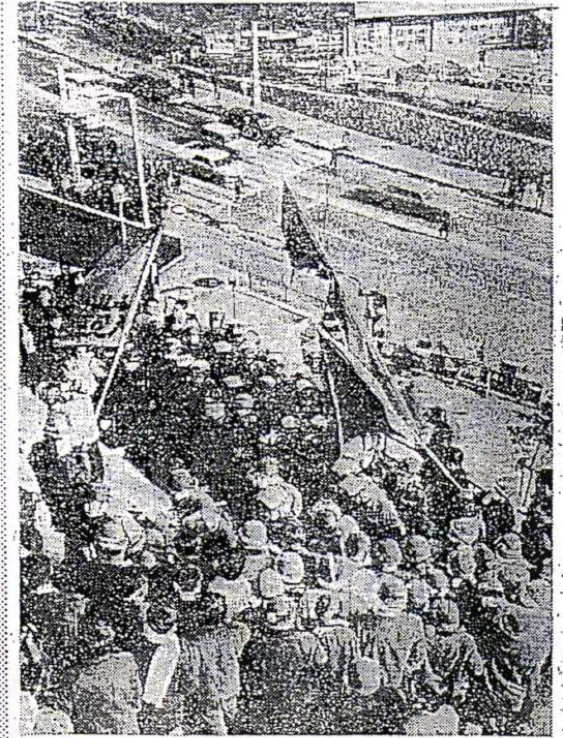
刊行委の註一69年3月1日の事件については、B2に教養部広報30号の74〜75ページ(に転載されている同日の神戸新聞・夕刊)だけを収録していたに過ぎなかったが、その後いくつかの資料を集めたので、その一部をここに掲載する。

この事件の暗い衝撃については、概念集2の「無力感からの出立」を参照して下さい。直後の入試を媒介する声明、学内での自主講座の開始は、闘争参加者総体を覆っていた暗さを引き受け、転倒していく試みでもあった。そして、予期以上の成果を作っていくことになる。



機動隊導入のうわ
さに緊張するゲバ
学生と支持学生ら
(2日午前9時10分)

監禁事件で激しい対立



学生会館の捜索に向かう機動隊に
"帰れ、と連呼するフロント学生
(手前後方は封鎖されている教員部一午前8時20分)

神戸大紛争 解決のメドたたず

根深い不信のミミズ

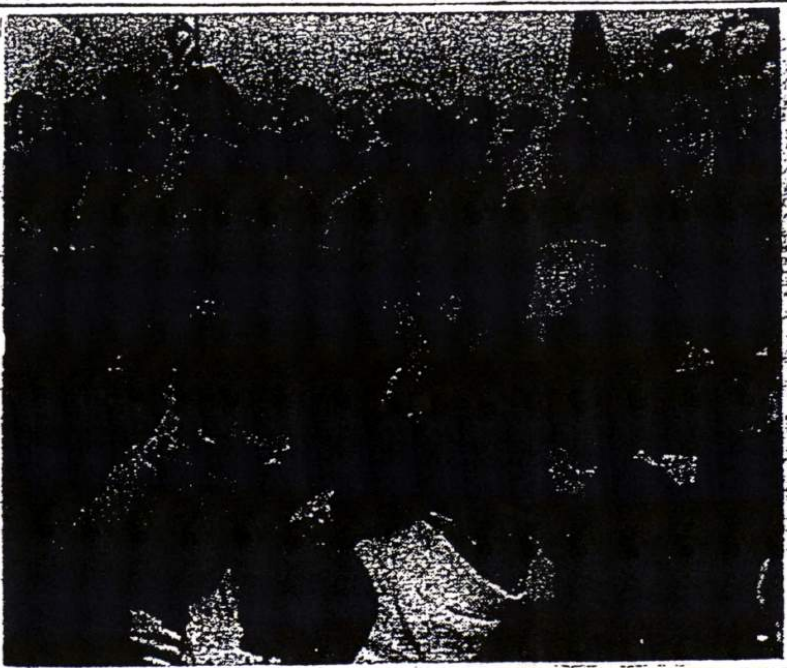
88年6月7日

「セクト打破」へ強い声

神戸大の紛争は、このままでは、解決の見込みが立たない。学生側は「セクト打破」を叫び、教員側は「セクト打破」を叫ぶ。このように、双方ともに「セクト打破」を叫ぶ。これは、神戸大の紛争が、単なる学問の争いではなく、社会的な争いであることを示している。学生側は、教員側の「セクト」を打破し、学問の自由を求め、教員側は、学生側の「セクト」を打破し、学問の厳格さを求め、双方ともに、学問の発展を望んでいる。しかし、根深い不信のミミズが、双方の間に蔓延し、解決のメドがたたずである。

大学の態度にカギ

神戸大の紛争は、このままでは、解決の見込みが立たない。学生側は「セクト打破」を叫び、教員側は「セクト打破」を叫ぶ。このように、双方ともに「セクト打破」を叫ぶ。これは、神戸大の紛争が、単なる学問の争いではなく、社会的な争いであることを示している。学生側は、教員側の「セクト」を打破し、学問の自由を求め、教員側は、学生側の「セクト」を打破し、学問の厳格さを求め、双方ともに、学問の発展を望んでいる。しかし、根深い不信のミミズが、双方の間に蔓延し、解決のメドがたたずである。



神戸大の強制捜査ですわり込んだ学生を排除する機動隊員
 (6) 田中眞由美の専攻科、通称の神戸大生会館前で

神戸大の紛争は、このままでは、解決の見込みが立たない。学生側は「セクト打破」を叫び、教員側は「セクト打破」を叫ぶ。このように、双方ともに「セクト打破」を叫ぶ。これは、神戸大の紛争が、単なる学問の争いではなく、社会的な争いであることを示している。学生側は、教員側の「セクト」を打破し、学問の自由を求め、教員側は、学生側の「セクト」を打破し、学問の厳格さを求め、双方ともに、学問の発展を望んでいる。しかし、根深い不信のミミズが、双方の間に蔓延し、解決のメドがたたずである。

拡大搜索許せぬ

可田博義 近々県警へ抗議

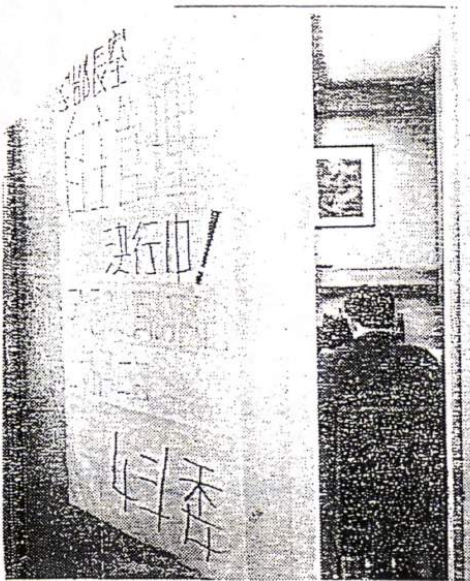
神戸大の紛争は、このままでは、解決の見込みが立たない。学生側は「セクト打破」を叫び、教員側は「セクト打破」を叫ぶ。このように、双方ともに「セクト打破」を叫ぶ。これは、神戸大の紛争が、単なる学問の争いではなく、社会的な争いであることを示している。学生側は、教員側の「セクト」を打破し、学問の自由を求め、教員側は、学生側の「セクト」を打破し、学問の厳格さを求め、双方ともに、学問の発展を望んでいる。しかし、根深い不信のミミズが、双方の間に蔓延し、解決のメドがたたずである。

神戸大の紛争は、このままでは、解決の見込みが立たない。学生側は「セクト打破」を叫び、教員側は「セクト打破」を叫ぶ。このように、双方ともに「セクト打破」を叫ぶ。これは、神戸大の紛争が、単なる学問の争いではなく、社会的な争いであることを示している。学生側は、教員側の「セクト」を打破し、学問の自由を求め、教員側は、学生側の「セクト」を打破し、学問の厳格さを求め、双方ともに、学問の発展を望んでいる。しかし、根深い不信のミミズが、双方の間に蔓延し、解決のメドがたたずである。

助手らが研究室管理

神大 理学部 皆川学部長と対立

本報が取材したところによると、理学部は三月十日、理学部の研究室管理をめぐって、皆川学部長と助手らとの対立が表面化している。皆川学部長は三月十日、理学部の研究室管理をめぐって、皆川学部長と助手らとの対立が表面化している。



理学部が自主管理する大学源住の二軒戸大連学部

自衛隊は十六日、源住の二軒戸大連学部をめぐって、皆川学部長と助手らとの対立が表面化している。皆川学部長は三月十日、理学部の研究室管理をめぐって、皆川学部長と助手らとの対立が表面化している。

刊行委の註一3月段階の記事であるが、日付や新聞名は不明。理学部の研究室自主管理闘争は政治的スローガンによるものではなく、研究や指導の内容に関連するために、あまり目立たなかったが、その後の理学部全体へ拡大するバリケードの質を決定し、それは他学部のバリケードの質を内的に再検討させる力をもっていた。助手や院生が中心になっていたことも重要である。なお、2月11日に理学部でおこなわれたシンポジウムの記録が「情況」69年3月号に掲載（その後、発言集1に収録）されたが、掲載過程に松下は関わっていないために誤記・誤認も多い。しかし、今学で最も早く松下をシンポジウムに参加要請しえた先駆性をあらためて想起している。

刊行委の註一神戸外大の解雇処分については、69年5月13日の大阪新聞の記事をβ1に、朝日、神戸の記事をβ2に収録している。なお、松下は、処分と同時に出版された大学構内立入禁止の通告を無視して、学内の教室で自主講座を持続した。

ここには、松下への弾圧キャンペーンを開始した69年5月13日の大阪新聞の記事を再録する。この新聞は、70年5月、12月にも一面全部で松下の「広告」をしている。再録する二紙の一定の客観的報道との差、こめられた意図に注目！

非常勤講師を解約

【神戸市立外大の正社員専任講師の松下真造が非常勤講師を解約し、自主講座を再開した。】

神戸市立外大の正社員専任講師の松下真造が非常勤講師を解約し、自主講座を再開した。松下は、神戸市立外大の非常勤講師として、今年度の授業を担当する予定だったが、同大の非常勤講師協会の要求により、自主講座を再開し、授業を担当しないことになった。松下は、この決定に対して、神戸市立外大の非常勤講師協会に抗議し、自主講座を再開するよう要求している。松下は、自主講座を再開し、授業を担当する予定だったが、同大の非常勤講師協会の要求により、自主講座を再開し、授業を担当しないことになった。松下は、この決定に対して、神戸市立外大の非常勤講師協会に抗議し、自主講座を再開するよう要求している。

神戸大、造反講師を解雇

【神戸市立外大の正社員専任講師の松下真造が非常勤講師を解約し、自主講座を再開した。】

神戸市立外大の正社員専任講師の松下真造が非常勤講師を解約し、自主講座を再開した。松下は、神戸市立外大の非常勤講師協会に抗議し、自主講座を再開するよう要求している。松下は、この決定に対して、神戸市立外大の非常勤講師協会に抗議し、自主講座を再開するよう要求している。松下は、この決定に対して、神戸市立外大の非常勤講師協会に抗議し、自主講座を再開するよう要求している。

大阪新聞

発行所 大阪新聞社
郵便番号 530
大阪府北区信田町2-7
電話(大阪)12218(大阪)274
大阪府北区信田町2-7
大阪新聞社191

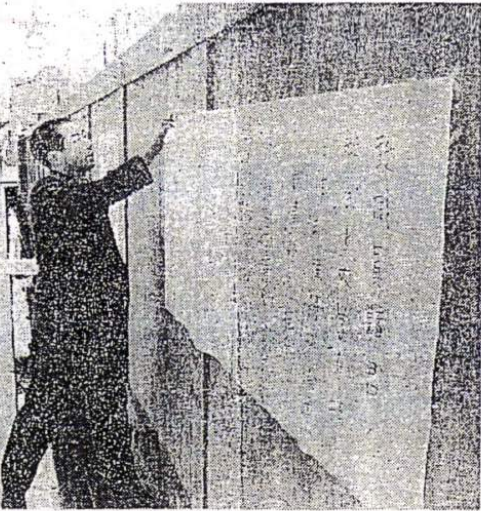
過激行動がんげんならぬ

暴力学生(反日共系)を支持

大学批判ぶちまくる

近々の非上層界から、反日共系学生が、大阪市外郊外の松戸地区の松戸大学をめぐって、反日共系学生による暴力行動が、神大、大阪府立大、関西大などの学生を巻き込み、過激な行動をとっている。この中で、松戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。この中で、松戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。

大外神 講師松下松だんクビ



3月3日御影工高で行なわれた神戸大学の学外入試会場に、大学批判の張り紙を貼った松下講師

松戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。この中で、松戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。この中で、松戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。この中で、松戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。

関学大でも授業放棄主張

講義に支障あおり食い留年も

講義に支障あおり食い留年も

神大では調査中

神戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。この中で、神戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。この中で、神戸大学の学生が、反日共系学生を支持し、暴力行動を繰り返している。

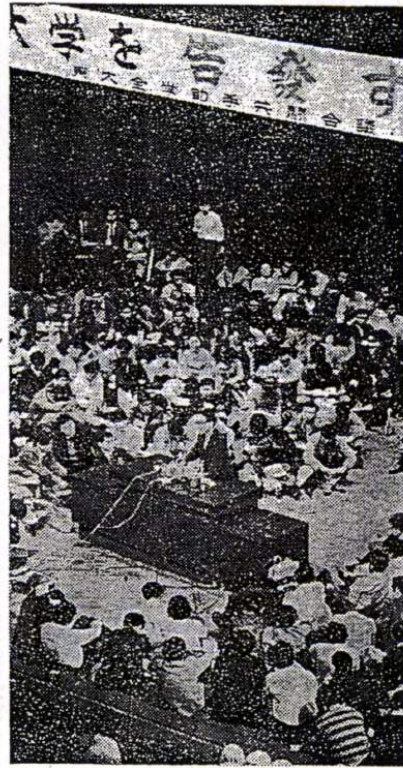
教授会はぶちこわせ

全共闘支持へ「造反教官」が氣勢

東京大学教員組合の学生を支持して、大学教員を批判する造反教官の集まりが十九日、東京大学教員組合会館、日教員会館の両会館で、東京・文京公会堂で開かれた。参加者は約二百人、演説の回も多かった。

この集まりは、東京大学教員組合の学生を支持して、大学教員を批判する造反教官の集まりが十九日、東京大学教員組合会館、日教員会館の両会館で、東京・文京公会堂で開かれた。参加者は約二百人、演説の回も多かった。

この集まりは、東京大学教員組合の学生を支持して、大学教員を批判する造反教官の集まりが十九日、東京大学教員組合会館、日教員会館の両会館で、東京・文京公会堂で開かれた。参加者は約二百人、演説の回も多かった。



ステージの上までびしりすわり込み、熱心に報告を聞く参加者（報告するのは立命館大学師岡祐行講師）＝文京区・文京公会堂で（午後6時40分）

刊行委の註一全国教員報告集会については、69年5月28日の朝日の記事と5月29日の入場券をB2に、5月30日の朝日、東京の記事をB1に収録している。経過や発言内容は、その後「情況」誌に発表され、さらに発言集にも収録されている。

ここには、5月30日の東京の記事を再録する。

小学校前で道路封鎖

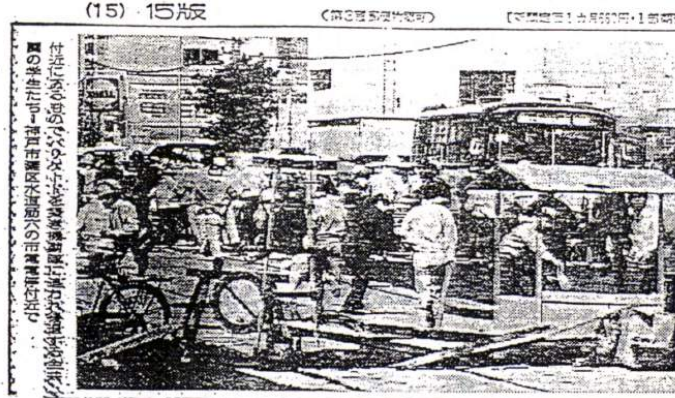
追われた 全共闘など

交通しや断、投石

顔しか める父兄 児童、窓に鈴なり

【神戸10日】神戸市兵庫区にある神戸市立小学校の前で、全共闘系学生が道路を封鎖し、交通を断つた。学生は投石や窓に鈴なりの行為をし、父兄は顔しかめる様子で、児童は窓に鈴なりの状態に陥った。神戸市立小学校の保護者会は、この行為を強く非難し、関係機関に訴えている。

神戸市立小学校の前で、全共闘系学生が道路を封鎖し、交通を断つた。学生は投石や窓に鈴なりの行為をし、父兄は顔しかめる様子で、児童は窓に鈴なりの状態に陥った。神戸市立小学校の保護者会は、この行為を強く非難し、関係機関に訴えている。



神戸市立小学校前、全共闘系学生が道路を封鎖し、交通を断つた。学生は投石や窓に鈴なりの行為をし、父兄は顔しかめる様子で、児童は窓に鈴なりの状態に陥った。



刊行委の註一全学的な集会を経て封鎖解除に持ち込むやり方は東大の前例があるが、それを模倣した(そして、それをさらに神戸大学が模倣することになる)関西学院大のやり方を神戸新聞(この右、掲載しきれない紙面も)から読み取っていただきたい。なお、関西学院大は2月段階の機動隊導入に残留なリンチに抗議して授業、試験を放棄した松下を3月に解雇している。

神戸大の
両派学生

子らの安眠破った乱闘

養護施設に乱入

一部学生花壇めっちゃめっちゃ

双葉学園

二百名から二百五十名に達した神戸大の両派学生が、自派学生と自派学生とを相手取り、神戸市中央区の養護施設に乱入し、花壇を踏み荒らし、園内を騒がせ、園児の安眠を破った。神戸市双葉学園(神戸市中央区)に乱入した神戸大の両派学生は、園内を騒がせ、園児の安眠を破った。園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。

「やめて」の声も無視

園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。



神戸の内ヶで放置されたゲキ棒や血ぞめのタオル—神戸市中央区、双葉学園で

園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。

園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。

三千数人が重軽傷

同派の両派学生が、園内を騒がせ、園児の安眠を破った。神戸市双葉学園(神戸市中央区)に乱入した神戸大の両派学生は、園内を騒がせ、園児の安眠を破った。園内には、園児の寝具やタオルなどが散らばり、園児は驚き、泣き出した。園長は、両派学生を呼びつけ、厳しく叱責したが、学生は黙って去った。

刊行委の註—秩序的良識からは、養護施設の中へ乱闘を持続したり、小学校の前の道路を封鎖するのは許しがたいのであるが、子どもたちは、秩序的良識の想定し期待よりも、はるかにリアルに正確に事態の真実を見ていたはずである。そのことを立証する作業を、「武闘」や「封鎖」に関わった主体がおこなってきていないことを刊行委は批判するが...

神戸大学新聞

神戸大学新聞会
 電話 (87) 5131 内線 2390
 神戸市西区六甲4-6
 発行所 神戸 25144 徳
 編集責任人 則安宗栄
 2頁 5円

古本会校売
天牛本店
 道頓堀・中・監前
 電話 (0) 二七三八・九

7-13 機動隊導入に抗議
 神戸大
 機動隊の導入に抗議する学生と機動隊の衝突の様子が写された。学生たちは激しい抗議行動を行い、機動隊員は水銃や催涙ガスを使用している。背景には、7月12日の学生集会の騒ぎが写し出されている。

砂を噛む戸田学長代行

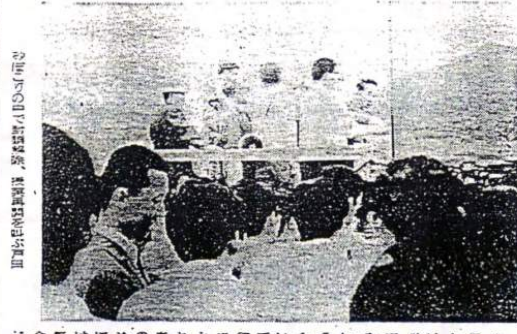
学友七十二名逮捕さる

7月12日大改選なにかつては一歴も口にしたもないはずの戸田・大竹にっして前代家間の客審判全神大人結集集會が高倉山を舞台に演じられた。

高倉山に於ける客審判全神大人結集集會の様子が写された。多くの学生が集まり、演劇や討論が行われていた。背景には山々の風景が見え、夜間の照明が場を照らしている。

粉砕された荒野の茶番劇

7.12「全神大人結集集會」



高倉山に於ける客審判全神大人結集集會の様

6-28 大衆回交に学生千

六甲合體堂で

六甲合體堂で6月28日(土)午後7時から行われた大衆回交の様子が写された。多くの学生が参加し、活発な議論が行われていた。会場は熱気に包まれ、学生たちは積極的に意見を述べ、討論に参加していた。

全学集会反対の確證書獲得

28.29の徹夜面交での教授談

28、29の徹夜面交での教授談の様子が写された。教授と学生との対話が行われ、全学集会への反対意見が述べられた。教授たちは慎重な態度を示し、学生の意見を十分に受け止める意向を示した。一方、学生側からは強い反対の声が聞かれた。

パリス人への警告

現代の司教授會を破壊せよ

69年7月12日(土)午後7時から行われた全学集会の様子が写された。多くの学生が参加し、激しい議論が行われていた。会場は熱気に包まれ、学生たちは積極的に意見を述べ、討論に参加していた。

7.2 教育で全共闘民青衝突

民青の逆バリエを粉砕

7月2日の全共闘民青衝突の様子が写された。民青連合は激しい抗議行動を行い、全学集会の開催を阻止しようとした。しかし、多くの学生が民青の逆バリエを粉砕し、全学集会の開催を求めた。現場は大規模な衝突を伴っており、多くの学生が負傷したと報じられている。

教授會確約を破棄

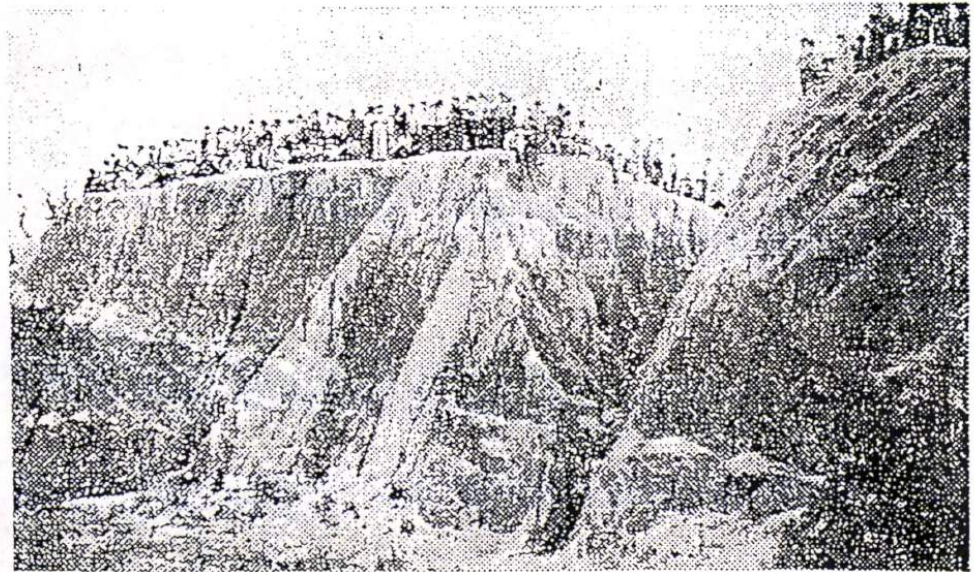
狂氣的な民青の教育オルグ

教授會確約を破棄した民青の教育活動の様子が写された。民青連合は激しい抗議行動を行い、教授會との交渉を破棄した。現場は大規模な衝突を伴っており、多くの学生が負傷したと報じられている。



全神大人結集集会で機動隊に追われ、ガケをころげ落ちながら逃げる学生たち
(12日午後4時、神戸市須磨区新倉山の造成地で)

朝日新聞 69年7月13日



ガケの上へ機動隊に追いつめられ、身動きのとれない全共闘学生＝神戸市須磨区、高倉山造成地入り口で

神大 全学集会

毎日新聞 69年7月13日



追われたあげく 機動隊に追いつめられ逃げ道を失った学生の一人はガケから落ちそうになり、懸命にこらえていたが、ついに10名下へ転落（神戸市須磨区の高倉山で開かれた全神大入団集会の入口付近）

刊行委の註一機動隊の演習場で強行された（封鎖解除のセレモニーとしての）全学集会についてはβ1と2を刊行している段階では69年7月13日の朝日の記事を収録しただけにとどまった（その不足を補うためもあって、松下のピラへ全学集会加担者の諸君へ）を全共闘出版局刊行のパンフから転載した）が、その後、7月13日の毎日、神戸、神戸大学新聞を入手した。毎日の記事と写真は、概念集7の〈宙吊り・続〉に掲載して、かなりの反響を呼んでいる。ここにも、これら全部を掲載したのであるが、量的な制約のために一部だけにする。希望者には全部のコピーを届けます。

集会大集

封鎖解除提案を支持

怒号のなか10分で閉幕

全神大結集集会は11日午後10時、神戸市東灘区高倉山で開かれた。参加した約千人は、封鎖解除の提案を支持し、怒号を上げて、10分間で閉幕した。

集会は、午後7時30分、高倉山で開かれ、約千人が参加した。集会は、まず、全神大結集集会の趣意を述べ、封鎖解除の提案を支持し、怒号を上げて、10分間で閉幕した。

妨害学生72人を逮捕

全神大結集集会の妨害行為をめぐり、11日午後10時、神戸市東灘区高倉山で開かれた。集会は、まず、全神大結集集会の趣意を述べ、封鎖解除の提案を支持し、怒号を上げて、10分間で閉幕した。



混乱のうちに開かれた全神大結集集会で演壇からマイクで呼びかける戸田学長事務取扱(矢野) ―神戸市東灘区高倉山で

封鎖解除の提案を支持し、怒号を上げて、10分間で閉幕した。集会は、まず、全神大結集集会の趣意を述べ、封鎖解除の提案を支持し、怒号を上げて、10分間で閉幕した。

夏休み返上し 来月にも授業
神戸市東灘区高倉山で開かれた全神大結集集会は、封鎖解除の提案を支持し、怒号を上げて、10分間で閉幕した。集会は、まず、全神大結集集会の趣意を述べ、封鎖解除の提案を支持し、怒号を上げて、10分間で閉幕した。

刊行委の註一アンケートをとるのは、かつての「民主的な」伝統の名残であるかも知れないが、回答率が35・8パーセントであるにもかかわらず封鎖解除強行の口実にしているところ、

八割が「封鎖解除」

神大教養部アンケート中間集計

機動隊導入支持は37.8パーセント

封鎖解除を八月に決めた神戸大教養部(同行部長事務取扱)は、同部学生に「封鎖解除をどう思うか」というアンケートを出したが、六日その中間集計が発表された。それによ

ると、封鎖解除を「賛成」する者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

「封鎖解除について」のアンケートは、同大が全学生に送ったものである。アンケートは、封鎖解除を「賛成」と回答した者が三七・八割、八割の学生が封鎖解除を「賛成」と回答した。封鎖解除を「賛成」と回答した者は、一七・二割、無回答者は三・四割に上った。この結果は、八月三日に同大が全学生に送った「教養部が封鎖解除について」のアンケートを基として集計されたものである。

明朝に強制捜査 神大

長瀬警察署は八日朝から公安警察隊、機動隊を神戸市東区の王子町に派兵し、封鎖解除をめぐり起る学生に捜査、強制捜査、現場検証を行ない同日大学側が予定している封鎖解除の準備にあたり、同日大学への警備立ち入りは今年三月、日共党の三三事件以降、官隊への投入など一連の事件で反

日共系学生の組織になっていた学生会側は、往來妨害、公衆執行妨害の捜査状を用意する。当日の現場妨害などについては、全日共系のきびしい態度のその方針。また、大学側は九日の全日共系呼びかけを前に七日午後七時、日共系学生が封鎖解除をめぐり、外遊去動告、親いて九日朝まで一般学生の橋内立ち入り禁止を行ない、八日朝からは教職員の手で封鎖解除を学内駐留させる。

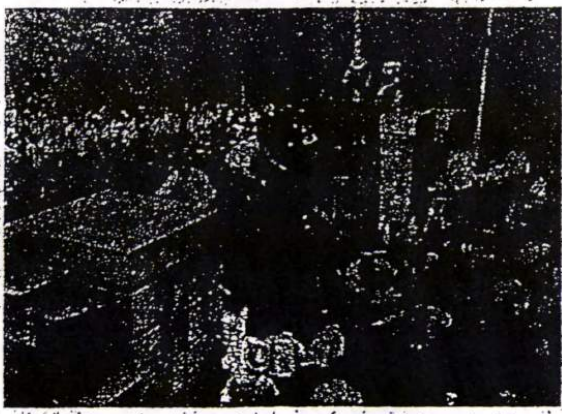
69年8月8日 神戸新聞(夕刊) マイクロフィルムの縮刷版なので文章はよみにくいが、見出しの多彩な情況性に注目していただきたい。

神戸新聞
夕刊
神戸新聞社 編集長 佐藤 正
社址 神戸市中央区南港町三丁目
電話 5211111
CIN 第100号 1969年

上田産婦人科病院
産婦人科 麻酔科 産科 (主任) 上田 幸三
院長 上田 幸三
副院長 上田 幸三
神戸市中央区南港町三丁目

機動隊に守られて

学生らはすてきに退去



神大、八カ月ぶり封鎖解除

封鎖解除に際しては正面のバスターミナルを通過する警備員たち(神戸大学正面)

【神戸八日電】神戸大学(以下神大)の学生らは、八カ月ぶりに封鎖解除された。学生らは、八日午前八時、正面のバスターミナルを通過し、退去した。封鎖解除は、学生らと機動隊との交渉の結果である。機動隊は、学生らの退去を監視し、封鎖解除後も警戒態勢を維持している。

火星に生物の可能性

マリナー観測の科学者語る

南極冠にアシモニアガス

【ワシントン八日電】火星の南極冠にアシモニアガス(アンモニア)が存在する可能性が、火星探査機マリナーの観測結果から明らかになった。科学者らは、南極冠の氷層の下層にアンモニアを含む氷が存在しているのではないかと推測している。アンモニアは地球の生物に不可欠な物質であり、火星に生命が存在する可能性を示唆している。



火星の南極冠にアンモニアを含む氷が存在している可能性が、火星探査機マリナーの観測結果から明らかになった。科学者らは、南極冠の氷層の下層にアンモニアを含む氷が存在しているのではないかと推測している。

南ベトナム連合政府 樹立の工作進む

【ワシントン八日電】南ベトナム連合政府の樹立工作が、アメリカ合衆国で急速に進んでいる。連合政府の樹立は、南ベトナムの統一と平和の達成に重要な役割を果たすことが期待されている。アメリカ政府は、連合政府の樹立を支援し、南ベトナムの統一を促進している。

前途の樂觀許さず

今後は教官の動きしたい

【東京八日電】大学法成立の前途に對して、教育界からは樂觀許さず、今後は教官の動きが注目されている。大学法成立は、大学の運営と教育の質に大きな影響を与えることが期待されている。教育界からは、大学法成立後も、教官の働きが重要であると見られている。

犯行の大筋認める

連続射殺事件初公判開く

【東京八日電】連続射殺事件の初公判が開かれた。被告は、犯行の大筋を認めた。連続射殺事件は、社会に大きな衝撃を与えた事件であり、公判を通じて真相が明らかになることが期待されている。



あおりの村

毎日新聞
夕刊
毎日新聞社(大坂)
大坂市北区芝上2丁目36
電話(06)361-1121,3131
©毎日新聞社 1969

加
久保田半
登録商標
恒利秋物産品部
'69 秀選会
9月1-6日
大坂府本町3(平船場)
電話(06)2308-2310
大坂・東京・京都

前月より九千万、増
八割の増減率
大阪府の「11」は前月比
増減率(%)は、前月比
増減率(%)は、前月比
増減率(%)は、前月比
増減率(%)は、前月比
増減率(%)は、前月比

新学季 大学法の秋

重症校も一応再開

新入生には初の授業



「新学季の初日」 毎日新聞記者が撮影した神戸大学での授業再開の様子

1日、東京大学、大阪大学、京都大学、名古屋大学、神戸大学、北海道大学、東北大学、新潟大学、東海大学、甲斐大学、信州大学、岐阜大学、静岡県立大学、富山大学、石川大学、福井大学、滋賀大学、奈良県立大学、和歌山県立大学、鳥取県立大学、島根県立大学、岡山県立大学、広島県立大学、山口県立大学、徳島県立大学、高松市立大学、愛媛県立大学、香川県立大学、高知県立大学、福岡県立大学、佐賀県立大学、熊本県立大学、宮崎県立大学、鹿児島県立大学、沖縄県立大学、各大学の新入生が初授業を受けた。また、重症校も一応再開された。

広大で20余人逮捕

大阪外大など再封鎖も

【大阪】11日午後、大阪府警は、学生連帯行動隊のメンバー20余人を逮捕した。また、大阪外大など再封鎖された。この行動は、学生連帯行動隊が主催する「学生連帯行動」の一環として行われた。学生連帯行動隊は、大学法の秋を機に、全国の大学で活動を展開している。大阪府警は、この活動を抑制するために、大阪外大など再封鎖された。また、学生連帯行動隊のメンバー20余人を逮捕した。

刊行委の註―89年9月1日に全国的に強行された授業再開の神戸大学に関する報道は、朝日、毎日、読売、神戸の各夕刊をβ1に、教養部広報30号の154～155ページをβ2に収録した。

毎日新聞 69年9月1日(夕刊)には、松下への処分理由の一つとなったB109教室占拠―自主講座の記事があるので、部分的に拡大してβ1から再録する。

(部分拡大)

神戸大

神戸大学は、九月一日の夜、約三十人の入学生が、入校直前に、入校生を襲った。...

約三十人が八時半過ぎから同題正門付近まで、A、B両陣の激しい衝突に発展。...

関西学院大

関西学院大(西宮市)は、自らの入校生を襲った。...

69年10月9日 神戸新聞

試験の教室を封鎖

神戸大学は、九月一日の夜、約三十人の入学生が、入校直前に、入校生を襲った。...

刊行委の註—69年秋の闘争過程はマスコミの関心を引く外観をもたず、各人の内的な総括と葛藤を伴う質を帯びていたために、報道量は乏しいが、それでも次の二つの記事からは...

69年11月12日 朝日新聞

教官が授業を放棄

神戸大学の大隈校舎で、九月十一日午後一時、神戸市外灘の海軍大学校で、約五十人の学生が、入校直前に、入校生を襲った。...

一、ここはお江戸を、何百里
はなれて遠き 神大も
フアンシヨの光に 照らされて
自治も自由も 石の下

二、折りから政府の 手助けの
大学法案 通ったれば
全国初の 空洞化
近路の船を 守りたる

三、くまなく晴れた 月今宵
窓に見えたる灯 唯一つ
うらみの落首 かぎりなく
明日は落城 走馬灯

四、黄色いリボンを 胸につけ
学長ベコベコ ポリ公に
暴徒を追い出す 救世主
こんごもよろしく 頼みます

五、立入り禁止の 監獄で
職員せつせと 消したるは
反戦思想のラクガヤよ
消しても呪いは 消えはせぬ

六、折から政府の 攻撃に
進歩派教授は 顔上げて
妻子の為じゃ かまわずに
講義しようと また一人

七、封鎖解除の その夜に
心ほそぼそと 筆とって
古いノート ごてごてと
デッチあげたる この證文

八、思えば悲し 昨日まで
まっ先かけて 教育の
欺節を散々 ころしたる
勇士の心境 かわれるか

九、学長これを 見るにつけ
なんであんなに かたくなに
反対したのか 大学法
早速文相に 謝罪文

十、残り火熄ゆる 一〇九
我党狩りも もう少し
松下首を 切ったれば
文相の感涙が 雨あられ

刊行委の註―作者は不明。内容も新書版の註もよい出来とはいえないが、それなりに面白い。三の「窓に見えたる灯 唯一つ」とは8月7日から8日の 松下研究室の明かりをさしているであろう。

①「六甲空闘」を占拠した神戸大生共闘の落首は、天下にその名が高い。特に、どの大学のバリエードでも不思議と手のつけられなかった黒板という処女地を開拓した功績は高く評価されている。こうした大空強襲競争によって操を汚された処女大生共闘局は連夜の首魁の一人松下昇氏を告発し、一方では夜間ロケットアットで処女強襲生手術を行なったという。

②松下首―松下昇氏のこと。封鎖解除後も、ねばり強く自主講座運動を組織。当局及び民青学内検動隊の指名手配人物となる。一〇九とは、自主講座運動の拠点となっていた教授部の教室。

刊行委の註し処分過程を媒介する警察の動きに重点を置く報道は、まとめてリスト化する
と次のようになる。

70年4月9日 朝日新聞（8日の松下ら41名の教授会妨害容疑での逮捕）

読売新聞（同前）

神戸新聞（同前）β3の36ページに初めて掲載する。

5月4日 神戸新聞（夕刊）β3の37ページに初めて掲載する。

何気ない短い記事であるが、同じ日付で松下への逮捕状が出ていたことを
考慮すると、重大な意味を帯びてくる。

5月12日 神戸新聞（逮捕状が出たことを公表、β1から、このパンフレットに再録）

サンケイ新聞（警察から入手した写真を用いて松下の違法行為を全面報告
しており、β1に収録しているので再読の価値あり。）

朝日新聞・夕刊（逮捕状が出たことを公表、β1）

毎日新聞・夕刊（逮捕状が出たことを公表、β1）

逮捕状は5月4日に松下を含む数名について出たのであるが、先に逮
捕されていた獄中の共闘者からの極秘の連絡により松下が潜伏したために
警察がマスコミを使って公表し、松下を身体的に幻想的に追い詰めようと
した。しかし、逆用し転倒されていることは概念集1「非存在」の項目な
どに示した通りである。

5月14日 サンケイ新聞（空振りの家宅捜索）（「脅迫？」状に同封されていたもの
をβ1に収録した。松下の顔写真に×印をつけ、記事の上に「死んでわび
よ」と大書してある。）

5月15日 神戸新聞（松下の潜伏中の表現）（β1と概念集10）

5月19日 読売新聞（逮捕現場）（β1と概念集10）

5月19日 毎日新聞（β1）

5月20日 大阪新聞（社会面全て）「鬼っ子教官 造反の果て」（β1）

5月23日 週刊アンポこうべ（β3の37ページに初めて掲載する。）

松下神大講師に逮捕状

授業、試験などを妨害



松下 昇講師

松下神大の学内紛争に起因する
逮捕状を請求している長瀬昭彦講師

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

神戸新聞 70年5月12日 (B-1)から再録

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

長瀬昭彦は、同大文学部国文学科
講師として、同大の学内紛争に
一〇月を以て教職を辞職し、長瀬
昭彦本人の扱いで扱われる予定
かため、この長瀬昭彦の逮捕状
を請求した。

刊行委の註「湯浅光朝のコメントから次のことを想起する。国際自然科学史学会（本部モ
スクワ）の議長かつ全国教養部長会議の議長でもあったかれは、松下の処分逮捕・起訴
による身体的排除抹殺なしには大学の改革も自然科学の進展もありえない、と真剣に考
えていた形跡がある。そのために開発した手法が、形式的には議決ではない（アンケート
としての処分の段階についての）論議と形式的には告訴ではない（松下らの行為の確認と
いう名目での）警察への出頭・供述で、これは多くの教授会メンバーに「歓迎」された。

刊行委の註—大学当局の動きに重点を置く処分過程についての報道は、まとめてリスト化する。と次のようになる。

70年4月26日 神戸大学新聞 前川哲夫「松下処分問題の湯浅問題としてのアプローチ」

($\beta 2$)

5月31日 アサヒ・ジャーナル 特集記事「造反教師極刑の論理」($\beta 1$)

8月1日 朝日(2種類)、神戸(それぞれ $\beta 1$)

毎日、読売(それぞれ $\beta 2$)

9月13日 アサヒ・ジャーナル 特集記事「積極的敗北を選んだ松下講師」($\beta 1$)

9月30日 神戸外大新聞 特集記事「微笑の系譜・その一」(表現集の系列ではあるが、 $\beta 1$ から再録する。)

10月15日 九州大学新聞 白石治「神戸大学闘争の中の松下昇」(批評集7の系列ではあるが、 $\beta 1$ に収録している。)

10月16日 毎日、読売、サンケイの各夕刊(それぞれ $\beta 1$)

朝日・夕刊($\beta 2$)

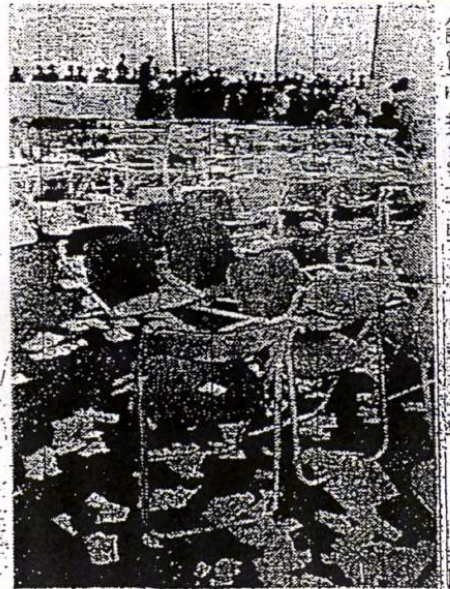
なお、 $\beta 1$ に収録した「70年10月16日 神戸新聞」の日付は、70年4月16日と訂正します。

10月17日 毎日($\beta 1$)

無人の会場で強行

わずか五分 農民ら総退場

【前掲】東京市川区農協を会場としたこの演説は、午前七時十分、大勢の農民が会場に集まり、演説が開始された。演説は、約五分の短時間で終了し、農民らは総退場した。会場には、演説終了後、約五分の間、無人の状態が続いた。この演説は、東京市川区農協を会場としたもので、約五分の短時間で終了した。会場には、演説終了後、約五分の間、無人の状態が続いた。この演説は、東京市川区農協を会場としたもので、約五分の短時間で終了した。会場には、演説終了後、約五分の間、無人の状態が続いた。



反外資株主会がランとした説明会会場では、田田の説明が受けられた一田田三田等、其女勇助で

松下講師を懲戒免職

神大 紛争の国立大で初めて



松下 講師

【前掲】東京市川区農協を会場としたこの演説は、午前七時十分、大勢の農民が会場に集まり、演説が開始された。演説は、約五分の短時間で終了し、農民らは総退場した。会場には、演説終了後、約五分の間、無人の状態が続いた。この演説は、東京市川区農協を会場としたもので、約五分の短時間で終了した。会場には、演説終了後、約五分の間、無人の状態が続いた。

第二弾は公害問題

神大の公開講座 スタート

【前掲】東京市川区農協を会場としたこの演説は、午前七時十分、大勢の農民が会場に集まり、演説が開始された。演説は、約五分の短時間で終了し、農民らは総退場した。会場には、演説終了後、約五分の間、無人の状態が続いた。この演説は、東京市川区農協を会場としたもので、約五分の短時間で終了した。会場には、演説終了後、約五分の間、無人の状態が続いた。

松下元講師を起訴地検

【神戸】神戸地検第七回、神戸市東区松原五丁目、元神戸公立高校教諭松下元講師、松下界(名)を起訴した。

起訴状によると、松下は去る一月八日午後四時すぎ、四市警察署第一丁目の同大空教室部員松(名)一〇八番教室で、生徒松(名)と松(名)にペンキ落書きをして悪意を述べた疑い。

松下は去る五月二十二日に

(11月8日?)

刊行委の註—新聞名と日付は不明であるが、10月16日に発表された懲戒免職処分に対する粉砕行動を拵れ、松下らの身体的拘束を意図した大学側の告訴に連動したものであることは明確である。表現論的な意義、共謀者とされる人を媒介する存在論的なテーマ、起訴後の裁判過程の問題などを含めて、この短い記事から無数の展開が可能であるが、別の場でおこなってきているし、これからもやっていく。ただし、この起訴は仮装被告団の類例のない反撃により、その後(法的には)無罪が確定している。



神戸市立中央高校の黒板に「もてなすに全」と書かれた落書きの写し。この落書きは、1970年5月20日の大阪新聞の記事(β1に収録)から、同紙が70年1月の「落書」に関して警察から入手した写真部分を再録する。



70年5月20日の大阪新聞の記事(β1に収録)から、同紙が70年1月の「落書」に関して警察から入手した写真部分を再録する。

10月30日 (金)

午後1時よりB 108 教室前で参加者約40名で松下処分粉碎集会が催された。松下元講師、京大の野村教官ほか2名、「松下グループ」、A闘委その他セクトの学生が参加。デモ後A棟に入り、事務室に押入ろうとしたが、事務室は事前に鉄扉を閉じ、万一に備えていたので事なきを得た。その後一行は六甲台にデモし大学祭の立看板をこわした後学館第2 集会室で松下処分粉碎の討論集会を続行した。

11月17日 (火)

午後1時B 108 教室前の広場で、ヘルメット、ゲバ棒、旗などをもった約60名の学生が松下処分粉碎、大学祭粉碎、全学総決起集会を催した。10時半頃六甲台にデモし六甲台の学生自治会室に乱入、破壊の限りをつくした。

※ ※ ※ ※ ※

昨年行なわれなかった大学祭を、本年春行なうことができなかったため、秋に行ないたいという学生からの申出であり、応援団、体育会、文化総部、学生会の4団体が中心となって計画を進めた結果、11月18日 (水) 午後の前夜祭から23日 (月) の園遊会まで、研究会、発表会、展示会、講演会、鑑賞会、競技会などの種目をもりこんで実施された。

この行事は、そのあり方について、主催者側とそれに反対する学生との間に終始対立をうみ、かなり外部からの参加者も多かっただけに、今後反省すべき問題を残していると考えられる。まず開催以前から17日 (火) には六甲台の自治会室が、ヘルメット、ゲバ棒の学生数十人により破壊されて前途多難を思わせしたが、一日目には『橋のない川』の上映をめぐって六甲台講堂前で、こざり合い、マイク合戦などが見られた。2日目と3日目には全共闘側と4団体との間で、大学祭という名称をはずし、サークル行事として行なうという確認書が交換されたものの、3日目には一部の学生による講演会の妨害などもあり、最終日には演壇を占拠したり、市民に呼びかけたり、ビラまきの妨害などもあった。模擬店もほぼ60ヶ所開かれていたうち20ヶ所ぐらいは被害をうけたらしく、詳細は調査中である。

事の是非はともかくとして、暴力はあくまでも否定されなければならないが、自治ということがいかにむづかしいものか、改めて思い知らされた数日であった。

刊行委の註「70年秋の神戸大学の状況はマスコミの報道対象にはなっていないが、重要なテーマにあふれていた。69年8月7日闘争の被告団の裁判闘争に対する裁判所の報復としての保釈取消(7月17日)のままの審理が強行されつつあり、政治党派の内ゲバが激化しつつあり、大学祭への批判行動があった。最後のものについて、当時の教養部広報24号の一部を掲載する。ここには事態の本質は殆ど伝えられていないが、70年の大学祭を批判する人々の主張は、①69年のバリケードにより大学に公認された行事としての大学祭は不可能になっている意味を把握せよ。②70年10月16日に松下処分が出されている状況を承認し固定化するような行事は粉碎する、というものであった。」



松下

造官 大元 神反

ふざけた初公判

被告席に
二七者二人人定質問に代返

大合唱 紙吹雪
神戸地裁

刊行委の註―70年12月24日の公判については、同日の朝日、毎日、読売、神戸、大阪の各夕刊と、翌日の朝日、ジャパン・タイムズ、マイニチ・デイリーニュースの記事をβ1に収録している。驚きを率直に表現している英字新聞の記事を「メタ」第14号からβ1に収録したが、ここにも再録する。本当は「メタ」の指摘のように、見出しからいえば「紙吹雪：大合唱、松下ふざけた初公判」が最も面白いのであるが、β1の原コピー自体の写りが悪く、原紙を入手する余裕がないので、残念ながらここには再録できなかった。(見出しのみ掲載) 71年1月22日の公判については、同日の朝日、神戸、サンケイの各夕刊の記事をβ1に収録している。

なお、β1に収録した70年12月24日の朝日新聞(夕刊)の記事には被告席の数人の写真も掲載されているが、この中には召喚されていない仮装の被告人がいるので、再読して、だれがそうなのか探して下さい。β1に収録した「平凡パンチ」(第1回公判の予想)や批評集γ篇に収録した池内白痴(池田浩士)氏の作品も参考になります。後者は、その後かれが、これに匹敵する作品を書いていない、という意味でも...

刊行委の註―本文はβ1か大阪新聞社資料室で読んで下さい。

紙吹雪 …… 大合唱

Leftists Disturb 'Rebel' Lecturer Trial



Students wrapped in white sheets singing carols outside the court building.

KOBE—Leftist radicals mixed heckling with carol singing and a candlelight rally at the Kobe District Court Thursday morning, throwing into turmoil the first trial of a former "rebel" lecturer at Kobe University and four students.

The session got off to a tense start at 10.30 a.m. with Noboru Matsushita, 34, the dismissed lecturer, and three of four other defendants in the dock.

When Presiding Judge Tetsuo Yamashita took his seat, dozens of students in the spectators' gallery suddenly rose to their feet, some wrapping themselves in white sheets, and started singing "Joy to the World" in a strange version of a Christmas Eve party.

Matsushita and other defendants responded to the noisy chorus by clapping their hands. About 10 students were evicted out of the courtroom by the riot police.

When the judge told Matsushita and others to identify themselves, a student who had sneaked into the dock during the initial confusion served as a stand-in, replying to the judge on behalf of the four. He was

quickly shoved out.

The defense counsel joined the unruly defendants and spectators in demanding a writing table for the men in the dock.

With the proceedings making little head way, the judge adjourned the session at 11.15 a.m. The second session was set for January 22 next year.

Matsushita and another defendant were placed under custody when they scattered confetti on their way out of the courtroom.

Outside the court building, about 30 radicals walked around lighted candles, singing carols and shouting "Merry Christmas" before the riot police dispersed them.

The police arrested a student of Kwansai Gakuin University who had been wanted since last September on charges of inflicting injuries on a professor in June last year.

Matsushita, a stubborn anti-order lecturer in German, was fired last October 16 for a series of "rebellious" acts including refusal to give lessons, obstructing classes of fellow instructors and smearing blackboards in classrooms with paint.

Hymn Singers Ejected From Lecturer's Trial

KOBE—Six students singing hymns were ejected from the public gallery during an abortive first day in the trial of a former university lecturer and three students charged with trespass and obstruction of business in a campus revolt.

The lecturer, Noboru Matsushita, 34, who taught German at Kobe University, is the first university teacher to stand trial in a student dispute.



The prosecution charged that Matsushita was in collusion with the students' campus struggle committee of his university that staged a series of antiadministration movements from December 1968 to August, last year.

Matsushita continued a lone battle with the administration even after the campus revolt subsided.

According to the prosecution, Matsushita obstructed the class of a professor on Sept. 1, last year, when classes resumed in the university. He occupied the rostrum of a classroom on that day after physically expelling Prof. Masayuki Kobayashi from the classroom.

On Dec. 4, last year and April 8, this year, Matsushita stormed into a room where faculty members had gathered to discuss his punishment. He thrust a microphone toward Mitsuasa Yuasa, dean of the general education faculty, demanding that he open the meeting to all.

On Jan. 8, this year, he painted slogans on the blackboard of a classroom, making it unusable the prosecution said.

Kobe University dismissed him Oct. 16 for taking leave without authorization and

obstructing classes.

When the hearing opened, six students draped in white sheets, started singing hymns in the gallery, and the defendants joined in the chorus.

Judge Yamashita ordered the six students to leave. He then noticed that seven "defendants" were seated on a bench although the number should have been five. As the judge called the names of each defendant, the same person rose each time to answer "Aye, sir."

The judge ordered one man to leave after finding he was not a defendant and placed under restraint a second fake defendant who refused to be ejected.

The court was adjourned 45 minutes later without even completing the preliminaries of identifying the accused.

Note ①

左側は Japan Times、
右側は Mainichi Daily News の 12月25日付の新聞記事であり、次のノート②は単語訳のサービスである。
見出しから言えば、「紙吹雪…大合唱」(大阪新聞)にかなうものではない。しかも記事、内容から言ったら…… (A)

人間を通じて見た神戸71年の躍動

渡部 一郎
坂本 正三
松本 善山
牛尾 吉朗
阪本 啓
恩實 一男
新谷 映子
坂下 茂巳
上田 漢一
丸川 栄子
河上 民雄
高梨 美津子
片山 義美
原口 忠次郎
釜内 和夫
P.A. キーンバマウ
高橋 正治
濱田 富榮
呂 達民
朝比 宗隆
土井 芳子
乾 豊彦
小原 豊彦
砂野 仁

宮崎 辰雄
杜山 悠
浅木 トミロ
砂田 重児
小泉 美喜子
服部 誠一
服部 五
清水 昭美
田崎 俊作
及川 英雄
足立 卷一
加川 準二郎
本地 すま子
倉井 一成
室井 神
五十嵐 操水
寺井 昭子
小林 桂助
桐山 宗吉
上野 衣子
山本 芳樹
津野 貞子
宮崎 定邦
外島 健吉
李 珠榮

(分)0095 (製)00114 (出)2408 定価 870円

朝日新聞神戸支局 編

神戸新報社

汲めども尽きない人間の面白さ!

原口 力
ロベール・バラード
喜多深雷
水谷頼介
永谷晴子
小林 武雄
今井 仙三
春本 幸子
松下 昇
中内 功
陳 鳳臣
百崎 辰雄
今岡 彌子
P.A. キーンバマウ
末広 光夫
福富 芽美
安部 正夫
風 蘭
竹中 都
小渡 良平
榎並 正一
駒津 展子
梶木 豊二
中西 隆
児玉 ぎよ子

ジーン・メルキ
毛利 芳蔵
山田 無文
田辺 聖子
浦井 洋一
佐野 雄一
石野 信一
鶴殿 種榮
藤山 正躬
小中 省三
小鹿 シキ
三角 恒雄
喜田 村正次
妹尾 美智子
田中 寛次
山内 俊一郎
安富 幸子
福田 義文
石井 一
甲にしき
ロベール・バラード
大竹 秀男
小山 乃里子
一谷 定之丞
望月 美佐

神戸の100人

1971年11月30日 発行

定価 870円
編者 朝日新聞神戸支局
発行者 大江 賢 男
レイアウト (株) 編集企画
印刷 凸版印刷株式会社

発行所 神戸新報社
郵便番号 650 神戸市東灘区下山手通3丁目34
電話・神戸 (078) 321-1847
391-4172
発信番号 神戸 10029

(分)0095 (製)00114 (出)2408
神戸・風土はか取りけんしむ

<第五部・世直し>

ダイエー社長 中内功
神戸大学元講師 松下昇
全国スモンの会兵庫支部長 春本幸子
丸山地区文化防犯協議会長 今井仙三
詩人 小林武雄
灘神戸生協家庭会代表 永谷晴子
地域開発プランナー 水谷頼介
兵教組教宣部長 喜多深雷
晩光会理事長 ロベール・バラード
小児科医師 原口力

刊行委の註「朝日新聞による取材には、立入り禁止通告の出た教養部構内でおこなう条件で応じたので、取材過程を含めて有効な打撃を大学当局に与え、一般市民からの好意的反応もふえた。記事の全文はβ1で読んで下さい。紙面に連載後、一冊にまとめて刊行された。

(前略)

あなたにとって(松下)とは。「自分では、木から降りて草原を歩き始めたサルにたとえて「いるんです」ほう、サルにねえ、あなたが。「そう、人類の進化の過程をみますとね、木にとどまっていたサルが、いったん勇氣を出して木から降りたとき人類が誕生したのです」木とは? 「神戸大教養部講師という肩書であり、現体制のことです」ゆつくりした、静かな口調だ。ことはの恐ろしさを知っているからだろう。

(後略)

71年7月9日 毎日新聞

書式不備で却下

松下元神戸大講師
の異議申立て公判

神戸大紛争から昨年十月懲
戒処分を受け、四月に大学研究室
を退出された松下・元神戸大教
養部講師の研究室入り専断止夜
処分異議申立ての初公判が八日神
戸地裁で開かれた。

同元講師は「懲戒処分は不当で
あり、人事院の審理が株の異議で
研究室を明探す按拠はない」とい
う異議申立書を提出したが書式が
整っていないため却下され、公判
は約三十分続いた。

刊行委の註―これは取材記者の予断による誤報で、裁判長（山田鷹夫）は、書類の慣例的
な書き方を弁護士についていない松下に説明し、書き足して再提出するように助言してく
れたのである。事実、かれはその後、裁判官としては例外的に公平な審理をすすめ、判
決も総体としての力関係から国側の「勝訴」の形をとっていたとはいえ、個々の問題点で
は松下の主張に理解を示し、特に「全員0点」を処分理由とするのは違法であるという判
断を示した。また、退官後、80年前後に地下街で偶然に出会った松下を喫茶店に誘い、形
だけにせよ「敗訴」させたことを詫び、今は弁護士をしているから、あなたさえ望めば刑
事事件を含めて力になりたい、とまで申し出てくれたのであった。松下は、好意に感謝し
つつ、自力でやっていく、と答えたが、その後、かれの弁護士事務所へパンフレット（前
史段階の発言集など）を届けると大変よろこんで読んでくれた。現在は弁護士事務所も閉
鎖されているが、以上のことを記事の誤報を転倒しつつ記しておく。

神戸大で内ゲバ

鉄パイプで一人が重傷

【神戸電】神戸大学構内で生じた全ての事件が神戸大学闘争や批評集の直接の素材ではないとしても、多数の「内ゲバ」(この記事は一例に過ぎず、殆どの場合は記事にならないレベルで激烈に展開されているが…)に対して松下が「無」力であったこと、この記事についても双方の党派名や対立原因に関して「無」知であることを自己批判している。同時に、「内ゲバ」に関わる政治党派が松下の提起してきたテーマと「無」縁なところで対立しているのかもしれない、その対立は理業を切り開く力をもちえない、と批判しておく。

【神戸電】神戸大学構内で生じた全ての事件が神戸大学闘争や批評集の直接の素材ではないとしても、多数の「内ゲバ」(この記事は一例に過ぎず、殆どの場合は記事にならないレベルで激烈に展開されているが…)に対して松下が「無」力であったこと、この記事についても双方の党派名や対立原因に関して「無」知であることを自己批判している。同時に、「内ゲバ」に関わる政治党派が松下の提起してきたテーマと「無」縁なところで対立しているのかもしれない、その対立は理業を切り開く力をもちえない、と批判しておく。

被告席に替玉学生

南山大学長 初公判荒れる 監禁事件

初公判の争い、被告席に替玉学生が出入りした。被告席に替玉学生が出入りした。被告席に替玉学生が出入りした。

南山大学長 初公判荒れる
監禁事件
南山大学長 初公判荒れる
監禁事件

71年10月8日 朝日新聞(夕刊)

刊行委の註—この闘争形態は、神戸大学における仮装被告団の70年12月24日、71年10月1日の闘争形態の応用であり、その成果は、その後の困難な状況の中でのさまざまの分岐にもかかわらず不変である。なお、神戸大学における仮装被告団の70年12月24日、71年10月1日の闘争形態については、B1を参照して下さい。

この段階の北川透は南山大学闘争の裁判過程に関わり、
「架空のへ被告」席へ(71年11月 あんかるわ29号)
などの表現を残している。記事との対比、その後の
かれの後退との対比が可能である。

替え玉被告や抗議

初公判冒頭から荒れる

南山大学長 監禁

南山大学長 監禁
南山大学長 監禁

71年10月8日 中日新聞(夕刊)

71年10月9日 サンケイ新聞

無関係の学生が出廷

南山大学長 初公判大荒れ

南山大学長 初公判大荒れ
南山大学長 初公判大荒れ

朝日新聞71年11月20日

機動隊を不意打ち

放 国道も一時バリ封鎖

【横濱二十一日午後三時電】 野田中の会館前学生を約三百人、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。

機動隊は約三時半ごろ、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。機動隊は約三時半ごろ、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。

逮捕の1人は助教役、初めは市会地区六町、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。機動隊は約三時半ごろ、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。

朝日新聞71年11月22日

処分保留のまま釈放

【横濱二十一日午後三時電】 野田中の会館前学生を約三百人、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。

機動隊は約三時半ごろ、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。機動隊は約三時半ごろ、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。

どの暴行を加えた。

釈放されたの

機動隊は約三時半ごろ、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。機動隊は約三時半ごろ、市会地区六町の関東学院大一人が機動隊に挑み、朝から市会地区六町をバリケードで封鎖し、国道も一時封鎖された。

刊行委の註—この記事はパンフレットへ91年6月20日の討論記録から再録した。河村氏の逮捕は、氏が関東学院大学の闘争へ本格的に関わり、処分されていく契機になり、松下も数回、関東学院大学の自主講座に参加した。直接の出会い、その時期であるが、集団的には60年安保闘争で出会っている。河村氏が70年に逮捕されたのも、東京での安保10周年デモであり、その時に取られた指紋で71年に身元が警察に判ったという関連がある。

第四十回(下) 新編海防論(下) 上原孝仁

南山への断章(上) 上原孝仁

南山の断章(上) 上原孝仁

南山への断章(下) 上原孝仁

71年12月11日 神戸大学新聞

南山への断章(下) 上原孝仁

南山への断章(下) 上原孝仁

刊行委の註一神戸大学闘争のテーマを他大でも拡大的に応用しようとする上原氏の最も充実した時期の文章の一つである。

上原孝仁の断章(下) 上原孝仁

内容や刊行過程についての質問は提起などは左記へご連絡下さい。

(概念集9や10のへあとがき)に記したような不確定状態にありますが連絡は可能)

〒657 神戸市灘区赤松町一の一 松下 昇 気付付 刊行委員会

☎とファクス078・821・4984

各パンフレットの定価はなく、読者の何らかの表現と交換するのが原則です。ただし、共同作業のためのカンパは歓迎します。郵便振替口座 01150・5・42929

松下 昇(についての)批評集

α 篇1(88年10月)、2(89年6月)、…α系は国家による批評

β 篇1(87年9月)、2(88年9月)、3(94年9月)、4(94年9月)

…β系はマスコミによる批評

γ 篇1~4(87年11月~88年3月)、5(88年11月)、6(93年9月)、

7(93年9月)、…γ系は個人による批評

表現集1(88年8月)、2(88年12月)、3(94年4月)、

発言集1(88年9月)、2(88年12月)、3(94年5月)、

神戸大学闘争史―年表と写真集―(89年5月、その後さらに更新中)

資料や討論記録として別冊1(93年4月)、別冊2(93年4月)、

(3・24)証言集・上巻と下巻(89年12月~90年1月)、

菅谷規矩雄追悼集(90年10月)、

救援通信最終号(91年5月)、

〈6・20討論の記録―不確定な断面からの出立―〉(91年10月)、

時の楔通信第〈0〉~〈15〉号(78年10月~87年9月) および関連パンフ多数あり。

概念集1(89年1月)、2(89年9月)、3(90年5月)、4(91年1月)、

5(91年7月)、6(92年1月)、7(92年3月)、8(92年11月)、

9(93年11月)、10(94年3月)、

序文とあとがきから見た既刊パンフのリスト(93年1月)、